

排気ダクト等の点検をしましよう !!

維持管理が徹底されていない排気ダクト等は、内部に多量の油脂等が堆積し、延焼ルートになるおそれがあります。清掃の必要な時期等を判断するために、下表を参考に店舗の実態に応じた点検を実施しましょう。



点検日 月 日 ()

部 位	点 検 方 法	確認欄
天 蓋 (フード)	油塵（油の混じったほこり）等の付着がないか。また、変形、損傷、腐食はないか確認する。	
グリス除去装置	油塵の付着により目詰まりしていないか確認する。	
	グリス回収容器の油量に余裕があり、油漏れがないか確認する。	
防火ダンパー	グリス除去装置のフィルター部分を取り外し、又は点検口から目視により確認後、温度ヒューズ部を取り外し、作動状況を確認する。	
排気ダクト (天蓋部分)	グリス除去装置のフィルター部分を取り外し、目視によりダクトの内面に油塵等の付着がないか確認する。	
排気ダクト (上記以外の範囲)	点検口から、目視により内面に油塵等の付着がないか確認する。	
排気ファン・ たわみ継手	点検口から、目視により羽根車、ケーシングに油塵等の付着がないか確認後、排気ファンを作動させ運転状況を確認する。	
火炎伝送防止装置	専門業者による点検が必要であるが、目視により消火薬剤放出口はキャップ等の覆いが確実に設けられており、油塵等の付着、目詰まりがないか確認する。	



※点検の頻度は、天蓋やグリス除去装置など 外観から確認できる部分は日常的に、排気ダクト内部など 外観から確認が難しい部分はおおむね1年ごとに点検しましょう。